

日本教育心理学会第52回総会 自主シンポジウム
「大学での職業指導義務化」に教育心理学は何が言えるか

現代GP専任教員および カウンセラーとしての経験から

駿河台大学 心理学部 永作 稔
nagasaku@surugadai.ac.jp

話題提供者の職歴と本シンポジウムでの役割

キャリアセンター側



教 学 側

2006～2009

筑波大学キャリア支援室
現代GP専任教員

役割

- 現代GPプログラム運営
- 就職・キャリア相談
- キャリアデザイン(選択科目)

2009～2010

駿河台大学心理学部

役割

- 学部教育
- 教職課程
- キャリアデザイン(必修科目)

キャリアセンター側と教学側をそれぞれ経験
主として実務者の立場から話題提供する

誰が「職業指導」をするのか？

外部委託

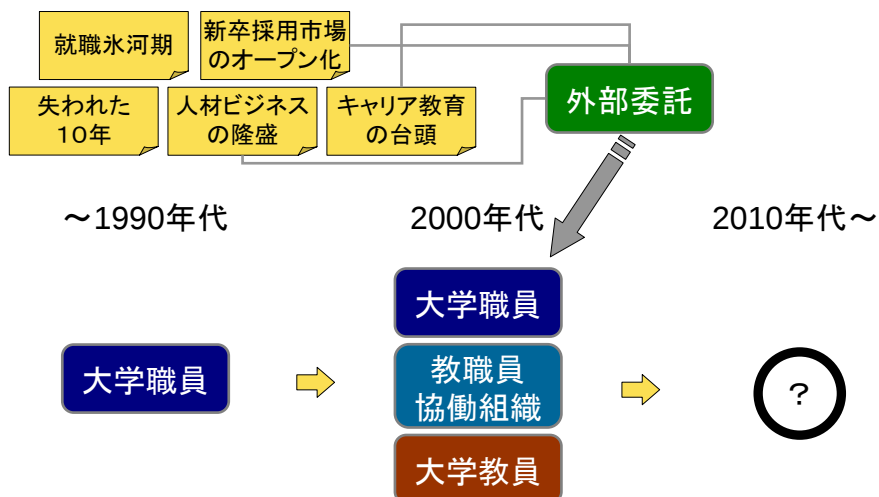
大学教員

大学職員

キャリア
センター



大学における「職業指導機能」の担い手



一部の理系領域における学校推薦、研究室推薦と
医学系・保育系等、資格と職業が直結した領域は除く

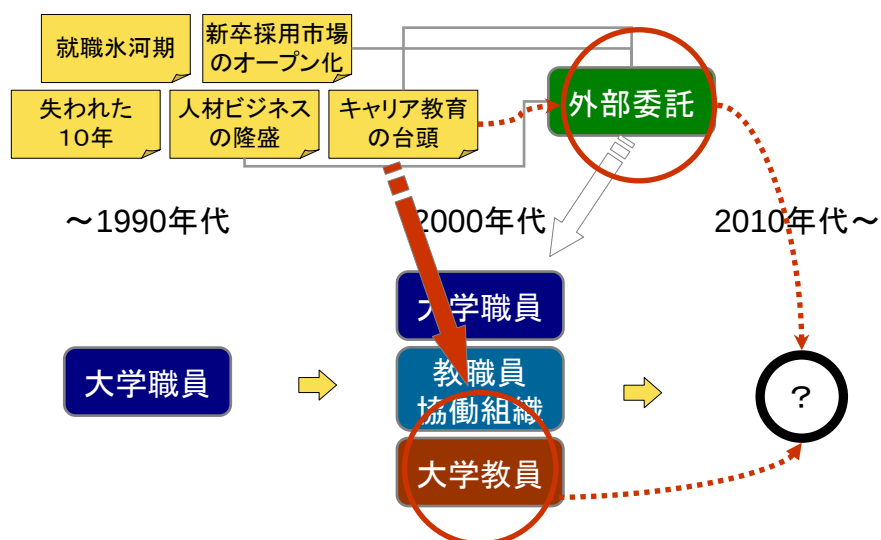
大学におけるキャリア教育の取組

※ 就活フローとは直接に結びつかない主として教育的機能

- ① インターンシップ科目
- ② 職業や今後の人生について考える科目
- ③ 初年次教育(1年次演習等)を通じた学生のスムーズな移行・適応支援
- ④ 大学における専門性の獲得と社会との接点を考える科目

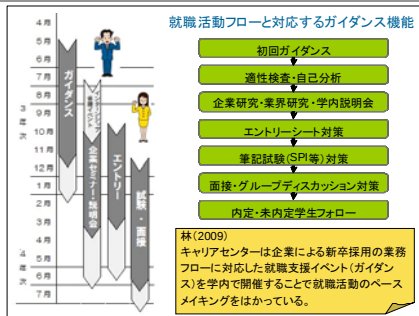
7

大学におけるキャリア教育の担い手



8

「職業指導機能」の分担・位置づけ・再構築



大学におけるキャリア教育の取組

※ 就活フローとは直接に結びつかない主として教育的機能

- ① インターンシップ科目
- ② 職業や今後の人生について考える科目
- ③ 初年次教育(1年次演習等)を通じた学生のスムーズな移行・適応支援
- ④ 大学における専門性の獲得と社会との接点を考える科目

【ガイダンス】

事務組織

【キャリア教育】

教学組織

何を「職業指導」とするのか？

誰が「職業指導」をするのか？

9

2つ

の壁

2つの壁 : ① 事務組織と教学組織の間にある壁

文科省(2010) 中教審 審議会報告

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

- 各大学はキャリア教育の方針を明確にし、**教職員の理解の共有**を図った上で、学生一人一人の状況にも留意しながら、**教育課程内外を通じて全学で体系的・総合的にキャリア教育を展開**することが求められる。

教職員の理解の共有

「全学」で「体系的」「総合的」に

11

2つの壁 : ① 事務組織と教学組織の間にある壁

文科省(2010) 中教審 審議会報告

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

- 各大学はキャリア教育の方針を明確にし、**教職員の理解の共有**を図った上で、学生一人一人の状況にも留意しながら、**教育課程内外を通じて全学で体系的・総合的にキャリア教育を展開**することが求められる。

事務組織

ガイダンス機能



教学組織

教育機能

12

① 事務組織と教学組織の間にある壁

事務組織



教学組織

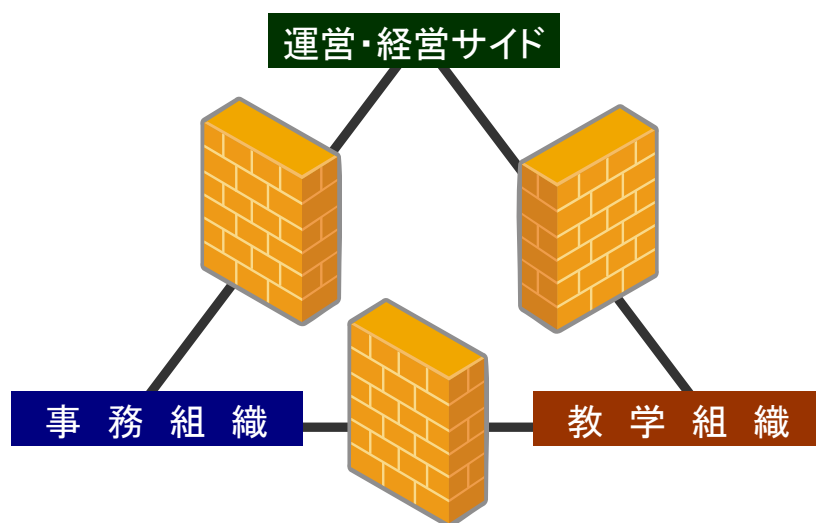
例えば・・・

- ガイダンスの時間枠確保と授業のコマ配置問題
- 事務職員が教育的役割を担う(授業に関わる)ことは禁忌???

「全学」で「体系的な」職業指導 = 画餅!?

13

もしかしたら・・・



14

2つの壁 : ② 専門と非専門の教員の間に壁

教員A



職業(就職)指導は自分の仕事ではない
自分は忙しい！キャリアセンターでやってくれ
実社会経験がないので知識・資質・技術がない
外部業者に任せておけば良い
社会に出るのが嫌で研究者をやっているのに・・・
学生を甘やかすことにつながる

教員B



2つの壁 : ② 専門と非専門の教員の間に壁

教員(非専門)



職業
指導

教員(専門)



- ・ 自分は職業指導の専門家ではないという意識
- ・ 職業指導が一部教員に丸投げされる

職業指導が他の教育課程とリンクしない危険性

「全学」で「総合的な」・職業指導 = 画餅!?

教育心理学からの提言



学校心理学の視点から

石隈(1998)

教育的援助サービスの担い手

- ① 一次的(専門的)ヘルパー
- ② 二次的(役割的)ヘルパー
- ③ 三次的(ボランティア的)ヘルパー



それぞれの立場で子どもの成長発達を支えていくことの重要性を説明している。

全教職員が②以上であるという自覚が必要？

18

発達の視点から

筑波大学 学生生活アンケート結果(H17. 4)

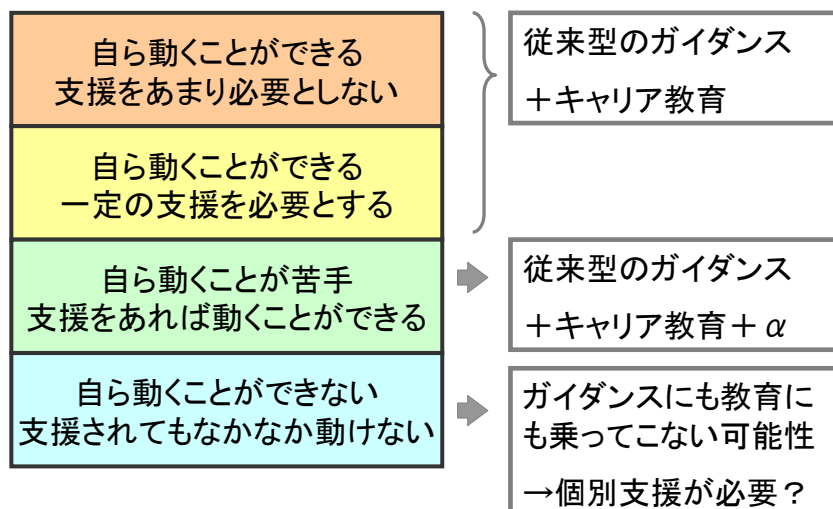
■ 被調査者 11,336名(回答数)		(全60項目)	
■ 学部生(7,990)+大学院生(3,122)+その他(57)+不明(167)			
■ 何をするにも自信がない	→ 「はい」	2,667名、23.5%	
■ 自分が進もうとする方向に自信が持てない	→ 「はい」	5,413名、47.8%	
■ 自分は人の役に立つことが出来る	→ 「いいえ」	1,670名、14.8%	
■ 自分にもとりえがある	→ 「いいえ」	1,071名、9.5%	
■ 自分の能力が発揮できている	→ 「いいえ」	6,222名、55.7%	
■ 人間関係に満足している	→ 「いいえ」	3,954名、34.9%	
■ 人との関係で傷つくことがすごく怖い	→ 「はい」	5,583名、49.3%	
■ いろいろなことを話せる友達がいる	→ 「いいえ」	1,537名、13.6%	
■ 深い人間関係になることにひどく抵抗がある	→ 「はい」	2,053名、18.2%	
■ 何となく不安になることが多い	→ 「はい」	5,239名、46.2%	
■ いつも憂うつである	→ 「はい」	1,710名、15.1%	
■ いつも孤独な感じがする	→ 「はい」	2,258名、19.9%	
■ 毎日が充実している	→ 「いいえ」	4,310名、38.0%	

19

適性処遇の視点から

学生のタイプ

アプローチ



20